

「主な取組」検証票

施策展開	1-(7)-ア	まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進
施策	①公共空間等におけるユニバーサルデザインの導入	
主な取組	都市公園安全・安心対策緊急支援事業	実施計画 記載頁 69
対応する 主な課題	沖縄県福祉のまちづくり条例(9年)施行により、新しい施設のバリアフリー化は進んでいるが、施行以前に整備した施設及び日常生活で利用する小規模施設、また住宅から施設、施設から施設の線(経路)や面(まち)としてのバリアフリー化が今後の課題である。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	高齢者、障害者等が利用できる園路、広場、駐車場等のバリアフリー化に対応した都市公園の整備を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	28.4% バリアフ リー化率			→	33.6%	→	県 市町村
	都市公園(園路、広場及び駐車場等)のバリアフリー化						
担当部課	土木建築部 都市計画・モノレール課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
公園費(公共投資交付金) 公園費(社会資本整備交付金) 他	6,450,093 (1,022,794)	4,994,832 (1,014,173)	県、市町村の都市公園におけるバリアフリー化に対応した園路、トイレ等の公園施設整備を行った。バリアフリー化の他、老朽化が著しい施設の改築・更新への対応が増えていることもあり、やや遅れとなった。【内閣府計上、一括交付金(ハード)他】	-
活動指標名			計画値	実績値
バリアフリー化率			28.4% (24年度)	集計中
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	高齢者、障害者等をはじめ、だれもが安全で安心して利用できる快適な公園となっていくようバリアフリー化に対応した公園施設の整備として、園路、トイレ等の整備を実施した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
公園費(公共投資交付金) 公園費(社会資本整備交付金) 他	6,911,030 (845,831)	県、市町村の都市公園におけるバリアフリー化に対応した園路、トイレ等の公園施設整備を行う。【内閣府計上、一括交付金(ハード)他】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

バリアフリー化への対応については、地元自治会、利用者等とも協力しながら、バリアフリー化施設の優先度を勘案し、効率的かつ効果的に整備を推進していく。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
都市公園のバリアフリー化率	25.6% (22年度)	25.9% (23年度)	33.6%	0.3ポイント	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
状況説明	公園施設整備については、バリアフリー化へ取り組んでいるところであるが、バリアフリー化への対応の他、老朽化が著しいその他の公園施設なども多数あり、これらも緊急的に取り組む必要があり、そのため、成果指標としては、基準値を若干超える程度となった。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

限られた予算の中において、バリアフリー化へ対応するための公園施設整備の他、多くの老朽化した公園施設の更新時期が迫っており、それら公園施設の改築・更新に係る予算も必要となることから、計画どおりに進捗していない状況にある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

事業を進捗させる代替案等はないものの、既存公園施設のバリアフリー化への対応については、地元自治会、利用者等とも協力しながら、バリアフリー化施設の優先度を勘案し、効率的かつ効果的に整備を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

予算確保に努めるとともに引き続き、バリアフリー化への対応については、地元自治会、利用者等とも協力しながら、バリアフリー化施設の優先度を勘案し、効率的かつ効果的に整備を推進していく。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(7)-ア	まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進		
施策	①公共空間等におけるユニバーサルデザインの導入			
主な取組	住宅リフォーム促進事業	実施計画 記載頁	70	
対応する 主な課題	沖縄県福祉のまちづくり条例(9年)施行により、新しい施設のバリアフリー化は進んでいるが、施行以前に整備した施設及び日常生活で利用する小規模施設、また住宅から施設、施設から施設の線(経路)や面(まち)としてのバリアフリー化が今後の課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県及び市町村は既存住宅の質の向上を目的に、市町村はリフォーム実施者に対して助成を、県は助成事業を実施する市町村を支援する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	事業詳細検討	支援戸数		→	2000件(累計)		県 市町村
		バリアフリー改修工事等を含む住宅リフォーム工事への助成				→	
担当部課	土木建築部 住宅課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
-	-	-	H25年度事業実施に向けての事業詳細検討及び予算要望	再掲 2-(3)-ア 100頁 2-(6)-ア 139頁
活動指標名			計画値	実績値
事業詳細検討			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
■順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	市町村が実施するバリアフリー改修工事等にかかるリフォーム助成事業について支援する補助金事業を予算化した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
沖縄県住宅リフォーム市町村助成支援事業	11,000	市町村:リフォームを実施する者に対する助成金事業の実施 県 :助成事業を実施する市町村に対する補助金事業の実施【県単等】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
全住宅のバリアフリー化率	32.5% (20年度)	32.5% (20年度)	40.6%	—	48.7% (20年度)
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
住宅リフォーム助成件数/年度	248件 (23年度)	427件 (24年度)	750件	↗	—
状況説明	平成23年度より一部市町村でリフォーム助成を行っている。実施市町村が拡大の傾向にあり、それに伴い住宅リフォーム助成件数も増加することから、課題解決についても進捗すると思われる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

県事業がH24年度からであるため、市町村の対応が遅れており、住宅リフォーム助成を実施する市町村が5市町にとどまっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

最低居住面積水準未達率の解消やバリアフリー化率の向上を図るためには、住宅リフォーム助成を実施する市町村を増加させる取組を推進する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

住宅リフォーム助成を実施する市町村を増加させるため、県と市町村で情報提供や連絡会議等を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(7)-ア	まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進		
施策	①公共空間等におけるユニバーサルデザインの導入			
主な取組	浮き棧橋整備事業	実施計画 記載頁	70	
対応する 主な課題	高齢者や障害者のためのバリアフリー化にとどまらず、子ども、観光客、外国人なども含め、すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を導入した環境づくりが求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	渡嘉敷港において、小型船舶への乗り降りや貨物の積み卸しの安全性、利便性を確保するため浮き棧橋の整備を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1基	2基	1基				県
	渡嘉敷港・長山港・多良間港等の 浮き棧橋の整備						
担当部課	土木建築部港湾課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
浮き棧橋 整備事業	391,695 (16,695)	20,805	渡嘉敷港における浮き棧橋実施設計を行った。 【一括交付金(ハード)】	再掲 3-(11)-ウ P296
活動指標名			計画値	実績値
浮き棧橋1基			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	船舶へ乗降する際に、潮の干満による高低差による不便を強いられていたが、浮き棧橋を設置することにより、船舶における乗降への安全性、利便性が確保される。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
浮き棧橋 整備事業	590,000	前年度において浮き棧橋の実施設計が完了した。本年度は引き続き浮き棧橋工事を発注する。【一括交付金(ハード)】	再掲 3-(11)-ウ P296

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
バリアフリー化のための浮き棧橋設置 港湾数	20港 (23年度)	20港	23港	→	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
なし	—	—	—	—	—
状況説明	平成28年度目標値の達成に向け事業推進中である。 各離島港湾において、要望が強い浮き棧橋整備を過年度より順次行ってきており、1基/年程度の割合で事業を進捗させていく計画である。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- 1)各離島港湾において、浮き棧橋の設置についての要望が多い。
- 2)老朽化が進んでいる浮き棧橋がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- 1)優先順位をつけ各港湾単位で、浮き棧橋を整備していく。
- 2)各離島港湾において、老朽化している浮き棧橋の調査を行う。

4 取組の改善案(Action)

- 1)優先順位をつけ各港湾単位で、浮き棧橋の整備を推進していく。
- 2)今後、老朽化している浮き棧橋の調査を行い補修及び新設についての検討を行う。